

令和3年度第1回高知県職業能力開発審議会 議事概要

1. 日 時 令和3年7月27日(火)
2. 場 所 オーテピア高知図書館 4F 研修室
3. 出席委員 大井方子 筒井早智子 二宮久美 脇尾一仁 大西孝枝
楠瀬智都世 杉藤雄紀 白井裕喜 川上勲夫 森山万里子
4. 議 事 第10次高知県職業能力開発計画総括について
高等技術学校の取組総括について
第11次高知県職業能力開発計画素案について

5. 内 容

(1) 開会

(2) 商工労働部長あいさつ

(3) 第10次高知県職業能力開発計画総括について

○事務局から説明

○質疑意見など

(委員)

5ページ目、中高年齢者の職業能力開発、シルバー人材センターにおける高齢者に対する技能講習の実施について、令和元年度の実績が19人となっているが、入力間違いではないか。

(労働局)

こちらの事業については、令和元年度に事業を見直している。本来、その時点で令和2年度の目標値を見直すべきだった。

(4) 高等技術学校の取組総括について

○事務局から説明

○質疑意見など

(委員)

弊社は技術系の企業で、工業高校や高等技術学校の訓練生を採用している。

高知県工業会に所属しており、所属企業の方々とお話しする中で、人材確保は非常に難しいと感じている。ものづくりに興味を持つ方が少なくなっていると認識しており、中村校の説明資料にあるように、小学校や中学校、高校への出前授業、ものづくり教室といった、小さい頃からものづくりに興味をもってもらうような取組を県や学校の方で行っていただきたい。

(事務局)

雇用労働政策課の取組として、ジョブキッズというイベントの開催を予定している。会場はこちらのオーテピアで、親子で自分の仕事の適性を考えていただくイベントとなる。

また、ポリテクカレッジがものづくり体験イベントを実施することになっており、こちらのイベントにジョブキッズのスタッフが参加し、コラボすることとしている。

さらに、ものづくり名人の派遣等、子どもたちに、ものづくりへの関心を高めてもらう取組も進めていきたい。

(委員)

中村校の生活相談員について、週1日勤務から週2日に増やしたということだが、こちらの日数で充分なのか。

(事務局 (中村校))

今年は訓練生が少ないこともあり、現状、足りている。ただ、昨年のように特別な支援が必要な訓練生が多くいる場合、週1回では大変だった。福祉関係や児童相談所に個別に相談も行っている。

(委員)

オープンキャンパスの実績について、教えていただきたい。

また、年齢層の広い訓練生同士のコミュニケーションを促進する取組があれば、教えていただきたい。

(事務局 (高知校))

先日開催したオープンキャンパスには、たくさんの参加があり、参加者が入校するケースが多いことから、大変重要な取組として位置付けている。

コミュニケーションがうまくとれない訓練生については、指導員が本人と面談したり、他の機関と連携することで対応している。

訓練生同士のコミュニケーションについては、年齢が高い訓練生や、社交性のある訓練生を中心に、割ととれていると思う。しかしながら、休み時間はゲームをする訓練生が多い。そうした子に対しては、校長や、指導員が声がけをおこない、コミュニケーションを取っている。

(事務局 (中村校))

先週開催のオープンキャンパスには5組が参加。8月にもう一度開催を予定している。

コミュニケーションについては、挨拶をしない子が多いので、挨拶の必要性について指導員から指導させている。

穏やかな子が多く、訓練生同士のトラブルはない。

(委員)

訓練生同士のコミュニケーションが促進されるイベントを開催すると、新たなつながりができるので、予算も確保しながら取組を進めていただきたい。

(委員)

高知高等技術学校の取組として、外国人労働者の資格取得等への支援のための体制を整えるとのことだが、内容の詳細について、説明いただきたい。

(事務局 (高知校))

明日から、初めてベトナム人向けに実施する。通訳が入ったとしても、言葉の問題など、課題が出てくると思うので、実施後に検証したうえで必要な予算措置等行っていきたい。

(委員)

広報に Twitter を活用しているとのことだが、FACEBOOK や Instagram の活用についても検討いただきたい。

(5) 第 11 次高知県職業能力開発計画素案について

○事務局から説明

○質疑意見など

(委員)

建設業は求人が増加しており、売り手市場となっていることから、求職者の要求に对应していかなければならない業種となっている。このため、入職促進事業が大変重要であると考えている。

そこで、我々としてもイメージアップ事業などの広報事業を展開し、ものづくりの楽しさや重要性を伝える事業も行っている。

DX については、建設 DX が必須となっている。年長者よりも若者がメインとなって取組を進めていかなければならないので、予算も付けて、若い人材の育成に取り組んでいただきたい。そうすれば、産業を下支えする人材が増える。

また、建設業界では、建設業で使用される車両の紹介等を記載した絵本を幼稚園、保育園に配布している。さらに今後は、中学生や普通科の高校生に対するアプローチも考

えている。

一方で、就職後の給与や福利厚生も大事なので、こうした部分についての改善も必要となる。「技術で生きてく」というすばらしいキャッチフレーズはいいのだが、本当は、しっかりとした賃金があって、技術で生きてくことができる。

引き続き、職業能力開発事業については、ますます予算をとって、取り組んでいただきたい。

(事務局)

建設業は求人が多く、人手不足という認識である。また、高齢化も進んでいると聞いている。中村校には建築関係の訓練科があり、高知校にはものづくりに関心のある生徒もいるので、さまざまな就職の選択肢について示していきたい。

また、建設業全体でイメージアップの取組をされているとのことだが、当課においてワークライフバランスや働き方改革の取組も実施しているので、連携できることがあれば、連携していきたい。予算についても、できる限りのことを行っていきたい。

(委員)

女性の方が新型コロナウイルス感染症の影響で打撃を受けている。職業訓練受講者に対する託児サービスの実績が3人となっており、少ないのだが、周知が足りていないのではないか。

介護をしている方に対する支援について、託児サービスのような取組はないのか。また、介護休暇を取りづらい方が多いと聞いている。介護をしている方に対する記載が一切ないが、対策を考えていただきたい。

(事務局)

託児サービスについては、保育所等にお子さんを預けることができているので、利用者が少ないという側面もあるかと思うが、パンフレット等により広報を努めてまいりたい。

介護休暇制度については、ワークライフバランス認証制度のアドバイザーを活用し、利用促進について、各企業に働きかけをしていく。

また、介護をする方に対する支援について計画に反映できるものがないか、検討していく。

(委員)

労働力人口が減少する中、若者の力が必要となってくる。ニートや引きこもりの若い方に対する支援について充実いただきたい。

(事務局)

不安定な就労を余儀なくされている就職氷河期世代の方に対し、ジョブカフェこうちにおいて、就職支援の取組を行っているが、引きこもりの方等にも、職場体験などキャリアコンサルタントが伴走支援を行いながら、就職できるよう取組を進めている。

また、サポートセンターや社会福祉協議会とも連携しながら、取組を進めている。

(委員)

企業としても就職後に安心して働けるための取組を進めている。また、自動車界は業績的には新型コロナウイルス感染症の影響を受けていないものの、研修や会議のオンライン化については進んでいる。そういったことについても、ご検討いただければと思う。

(事務局)

委託訓練では、eラーニングを取り入れた訓練の実施を検討している。遠隔地でも、また、コロナ禍でも訓練できるような体制を検討していきたい。

(委員)

看護師や助産師を目指す学生に対する奨学金制度について配慮いただいているが、中山間地域にある指定された医療機関で就業することに対する不安により、奨学金は返還するから、なかったことにしてほしいといった事例が毎年出てくる。

新人、新任の訪問看護師に対する研修を行うとのことだが、奨学金返還免除を活用している学生に対しても、研修会や情報交換により不安を払拭するような取組について検討していただきたい。

(事務局)

医療職については、最新の情報から遅れてしまうという不安感があるという事は聞いている。こちらについては、健康政策部ともご意見を踏まえた協議を行う。

(以上)